

平成29年度 第2回生涯学習センター運営審議会 会議録

- 1 開催日時 平成29年10月31日(火) 9時30分～11時15分
- 2 開催場所 宇都宮市役所14階 14A会議室
- 3 出席委員 18名  
丸山委員長, 竹内副委員長, 長谷川委員, 日渡委員, 金田委員, 今井委員, 石井委員, 高岡委員, 池田文男委員, 半田委員, 坂本委員, 田村委員, 稲葉委員, 小林委員, 生田委員, 樽井委員, 西田委員, 古谷野委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 内 容
  - ・報告事項
    - (1) 平成30年宇都宮市成人式について
    - (2) 平成29年度生涯学習センター文化祭について
    - (3) 宇都宮市民大学(前期)の実施状況について
    - (4) 人材かがやきセンター主催講座(前期)の実施状況について
  - ・協議事項
    - (1) 平成30年度生涯学習センター事業運営の考え方(案)について

7 発言の要旨

丸山委員長	まず、議事(1)の「平成30年宇都宮市成人式について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	【資料について説明】
丸山委員長	ただ今の説明につきまして、ご意見、ご質問などございましたら、お願いします。
古谷野委員	非常に多くの会場があり、該当者数や推定出席者数など書いてありますが、人数と会場の広さがマッチングすることがよろしいかと思えます。非常に混み合うなどの問題点が生じている会場というものはあるのでしょうか。
事務局	ただ今的人数と会場の広さのご質問ですが、例年、実際の成人式の出席者の状況から、該当者数と推定出席者数を想定して中学校区ごとに翌年の会場を用意しております。確かに会場によっては、余裕がある、少し窮屈に感じるという多少の差も

ございますが、概ね収容できる会場を用意して実施しております。写真撮影などでは、新成人の方に移動していただいて、会場の中で記念写真の撮影もするので、会場の広さと人数がピッタリの会場では、なかなか余裕が少ないというような現状はございます。

半田委員

会場に関しては、参加人数以外で会場を決定するための検討事項などはあるのでしょうか。

事務局

会場の決定についてですが、会場の一覧をご覧いただきたいのですが、現状、ホテル等の結婚式で使うような会場を使用しているところであり、該当者数が多い中学校については、どうしても会場のキャパシティの問題で、広い会場を用意せざるをえないという中学校区から優先的に割り振っております。その後、人数と中学校の地域性をみて、比較的地域から近い会場で、可能な限り割り振っているところです。あとは、各生涯学習センターで中学校区実施委員会の事務局を担っているのですが、1つの生涯学習センターで複数の中学校区を担当しているセンターもございますので、そのような中学校区は可能な限り同じホテルの会場でできるように割り振らせていただいております。

丸山委員長

他に何かございますか？

池田委員

ホテルマイステイズ宇都宮というのは聞いたことがないのですが。

事務局

ホテルマイステイズ宇都宮は、駅東にあります駅前のホテルでして、以前はホテルフェアシティや宇都宮ポートホテルという名称でしたが、名称が変わりまして、現在はホテルマイステイズ宇都宮となっております。

小林委員

ホテルマイステイズに去年出席しました。そこでは他の駐車場を借りるのですが、参加者にその駐車場がうまく伝わっていなかったようで、違う駐車場に停めてしまった人がいます。関係者にはちゃんと伝えていった方がよいと思います。

事務局

ありがとうございます。駐車場につきましては、実施委員会に確認しまして、適切な対応をとるように努めていきたいと思っております。

長谷川委員

何年か前にもお話したのですが、私は中央なのですが、街の中にホテルがたくさんあるにも関わらず、会場が護国会館です。歩いていけるところにも会場がたくさんあるのに、車を出して行かなくてはいけない。バスも出ていますけれども、やはりもう少し地域性、地域に近いところなどの見直しはしていただけたのでしょうか。

事務局

確かに地域性というところで、中学校区の地域内の会場での実施というのは、事

事務局としても常々課題として考えているのですが、現状ではやはり人数の多い中学校区から優先的に割り振らざるを得ないという状況です。そのため、その人数により割り振る中で、可能な限り近いところを用意させていただいているような現状です。また、中央生涯学習センターは、複数の中学校区を担当しているところもありまして、なるべく近いところで、まとめて実施できる会場を少しずつ見直しているところですが、継続した課題として、今後も検討していきたいと考えております。

丸山委員長

ありがとうございます。他に何かございますか。

他にないようですので、この件につきましては以上とさせていただきます。

次に報告事項②「平成29年度生涯学習センター文化祭について」、事務局より説明をお願いします。

事務局

【資料について説明】

丸山委員長

ありがとうございました。ただ今の説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお願いします。

坂本委員

少し伺いたいのですが、まちづくりの予算の中で、この事業を生涯学習センターや生涯学習課とやるのだと思うのですが、平均してどのくらいの予算を消化しているのか、もしわかれば教えていただきたい。

事務局

センターごとの文化祭にかかる経費は、手元に資料がなく詳しくはご説明できないのですが、予算としましては、中央、東、西、南、北の生涯学習センター、市民活動センター併設館につきましては、文化祭の負担金ということで各実行委員会に経費の半分くらいを生涯学習課から交付して実施しております。それ以外の13の生涯学習センター、地区市民センター併設館の文化祭につきましては、地域のお祭りなどと一緒で開催しておりますので、まちづくりの全体の中で各地域が文化祭の予算を支出しておりますので、のちほど調べまして、ご回答したいと思います。

坂本委員

回答まではいただかなくて結構です。まちづくりの費用の中から文化祭にどのくらい出しているのか、それに見合った事業を考えなければと思っております。自分のところはわかるのですが、他の地区はどのようなお金の使い方をしているかもしわかれば参考になるかなと思ったものですから。

田村委員

文化祭を行う中でこういう事情がありますが、他の地区ではどうでしょうかということで教えていただければと思います。姿川地区の生涯学習センターというのは大変立地条件の良い宇都宮環状線沿いにあります。登録団体の数も多く、相当数の方が、生涯学習センターで研鑽を積んでおります。この生涯学習センターを中心に考えた文化祭とすると、このような問題が姿川では起きています。研鑽を積んでいる方の作品を展示していただくわけですが、姿川地区在住者がその中でどのくらい

いるのかということ調べてみました。地区内の方は参加者のうち2割しかおらず、8割は地区外の方なのです。姿川地区のお金も出している、市からの助成もいただいている、合同でやっているということですが、参加出品される方がどこに住んでおられるかという、地区外の方が8割なので、大変ビックリいたしました。先ほど、センター長からの文化祭の説明でもありましたけども、今年から特別に、生涯学習センターで研鑽を積んでいない方、他で研鑽を積んでいる方でも、ぜひ地域の方の作品を出してもらおうようにしたところ、30点の応募がありました。ただ、生涯学習センターを中心に考えると、なんだか変だなという現象が姿川では起きています。他の地区でそういったことはないのでしょうか。文化ですから地区にこだわってという狭い考えではいけないのかもしれませんが、あまりにも地区内の人の作品が姿川の場合は少ないものですから、ちょっとビックリしたところです。30人の方が応募したわけですが、みんな生涯学習センターのことは知っています。どちらで学習されていますかと聞くと、姿川に最寄りの雀宮のほか、岡本に行っていて、岡本の文化祭で出展もする。姿川には今までも出展していなかったということでした。そのような、地域主体の文化祭でありながら、出展者は他地区の方が多いというように、ゆがみというのか、ひずみというのか、起きていることはどう是正してよいのか。また、是正すべき問題なのかもよく考えてみなくてはならないかなというのを抱えています。他の地区ではこういった状況はあるのでしょうか。

長谷川委員

中央の場合ですと、かなり前からそのような問題はあります。中心にあるものですから、宇都宮市民でない東武線の利用者などがかなりセンターにいらっしゃいます。そのため、地元の方は数えるほどしかいないのではないかとすることがあり、数年前から地元の方にも出ていただくようにしてきましたが、それでもほとんど中央地区以外の人です。中央はちょっと特殊っていうのがありますが、仕方ない問題なのかなとちょっと思いました。

竹内副委員長

ただいま話をきいておまして、中央から豊郷までそれぞれ報告いただきましたけども、周辺地区には比較的そういう問題があるのかなと、要するに他の地区から来るような割合が高いのではないかなと感じます。姿川の田村委員がおっしゃっていたように、かなり立地条件が良いところにセンターはあります。他の地区から来るというのは、私も見ていて時々そのように感じます。ただ一方で、今回のこの話題にはあがっておりませんが、街中の26の小学校の地区単位でやっている文化祭、これはちょっと様子が違ってくるのかなと思っております。私どものところでは、ほぼ90%近い人たちが地元の人たちでやっております。ただ問題は地区の団体がどれだけ立ち上がるようにやっているか、見ておりますと市街地ではPTAの方の力がかなり強く、文化祭をお願いしてくれているように思っております。周辺にいきますと、まちづくり協議会ですとか、さらに生涯学習センター職員の方が応援して実施していると思えますけど、市街地部分に関しては、比較的狭い範囲ということもありますが、その立ち上げ、運営などに関しても地元の方が立ち上げてやっているというそんな印象を持っております。

丸山委員長

ありがとうございます。なかなか興味深い話だったのですが、他のセンターで地区内、地区外などデータをとられているところはあるのでしょうか。

坂本委員

豊郷地区は、豊かな郷というような組織ですが、このような行事は地域全体としてやっております。27団体が豊郷地区にありますけども、実施にあたっては豊かな郷の役員による会議を経て実行委員会を立ち上げております。今回の豊郷まつり文化祭についても、すでに実行委員会を開催しましたが、私どもでお願いしているのはやはり大勢の方に集まってもらいたいという案内をしております。文化祭は内容を見ますと、姿川の田村委員の言ったように、他地区の方もかなり来ているようですが、豊郷については、作品やカラオケについては他から来る方がいます。あとの行事は大体が地元の方になります。これには豊郷地区にある41の自治会が活動しているわけですが、体育祭や豊郷まつりなどの行事はほぼ実施しておりますが、かなりの方は豊郷地区の方が多くというように見ております。ただ、歩け歩け大会については、まほろばの道という道でやるのですが、これには地区外の方もかなりおいでいただいております。今年もやりましたけども、雨模様の中で600名くらいの参加者で、これには地区外の方もかなりきておりますが、そのほかの豊郷まつり等については、文化部門以外については、ほとんど地元の人だと豊郷は思います。

丸山委員長

ありがとうございました。先ほどの田村委員の話につきまして、教育委員会の方としては、このような考えでやっていますなどはございますか。

事務局

田村委員からご意見いただきました利用者のうち地域外の方が8割というのは、貴重な意見で参考になったところです。生涯学習センターの事業については、地域外の方ですとか、市外の方という制限はないので、そのような状況は、是正する状況ではないと受けとっております。しかし、文化振興という意味で、地域の方が利用するにあたり、このあとの次年度のセンター事業運営の考え方にも出てくるのですが、生涯学習センターや生涯学習という事業が、市民に対するPRが足りないのかなとも受けとりましたので、今の貴重なご意見は課題として捉えていきたいと思っています。

田村委員

もう一点よろしいでしょうか。姿川は静かな文化祭でした。こられる方はお年寄りが中心で、他の地区はもっとにぎやかで盛り上がり、とても良いなあと思っておりました。何が姿川で足りないのかと考えると、子どもの部門、吹奏楽、音楽がない。子どもの作品を展示する場もない。大人の世界だけで行われていました。そのため、子どもの世界を作ろうということで、一昨年からやっておりますが、他の地区と全然違うと思いますが、絵や書道などを展示してもらおうとしますが、学校やPTA・保護者の協力姿勢が全然違い、姿川は協力してくれません。雀宮では先生が、岡本ではPTAが動き、みんなで盛り上げようとしています。学校とPT

A・保護者の姿勢が地域によって全然違い、格差があります。そのため、まだ作品展示はできず、音楽と演劇で我慢しています。子どもの世界まで含めてやるという考え方をするのがいいと考えると、まだ始めたばかりだからかもしれませんが、そういった障害があり、ぶつかっています。学校は、教育委員会でしょうけども、姿川については関心をもっていただいております。その進まないところが悩みで、課題と感じている姿川の状況です。

生田委員

今いただいた意見につきましては、教育委員会の方針として、学校側には地域とともにある学校、学校・家庭・地域が連携してこれからやっていくということがあります。

まず、地域の方に協力していただき、学校支援ボランティアに入っていただきながらというのがありますし、学校長の考えによって、地域にどれだけその作品や子どもを参加させるかというのは様々であります。

今日いただいた意見については、小学校の校長会の方で集まっておりますので、こういったご意見がありましたというのを伝えさせていただければと思います。

坂本委員

学校と地域の関係というのは、やはり大事にしないといけないと思います。豊郷地区については、各学校、小学校4校、中学校1校、それから県立高校が2校あり、学校との交流というのは、大事にしております。特に生徒の防犯については全地区において協力し、活躍していただいております。青色回転灯の車を使い、子どもたちを近くまで送るとか、そのような運動も展開しております。学校で何かをやる時には、自治会に必ず話をもってきていただいております。学校の文化祭なども案内がきます。他にも体育祭、音読会など、学校での行事については、かなり案内がきております。回覧等についても、豊郷地区においては、回してくださいとお願いされるものが多いです。また、学校と一緒に交流しながら行事の実施もしております。特に私が力を入れておりますのは防犯です。子ども達の登下校の見守り、これについて力を入れております。以前も日本財団から青色回転灯の車の補助を1台受けました。これは今、豊郷全地区をパトロールしております。さらに今年の事業で、栃木県で1台になりますが、日本財団からの補助が豊郷地区連合自治会に交付が決定しました。これが11月17日頃納車になります。この車は、やはり地区内で使用するということで、豊郷地区PTA連合会や各学校にその車に対する自己資金の賛助をしていただいている。8割の補助のため、残りの2割は自己資金というのがかかるのですが、今回特に学校関係がその車に補助しますということで、学校とは協力もしております。

丸山委員長

地域と学校の連携というのは非常に重要な問題だと思います。小学校校長会や中学校校長会の中で、こういう話があったということを伝えていただければと思います。

金田委員

緑が丘ですが、地域と学校は密接な関係にあります。コミセンまつりというのを9時半から2時までみっちり行いますが、その中で小学校の校長先生には毎回、最

初に歌ってもらっております。そういうような地区もあるということだけお伝えしておきます。

樽井委員

晃陽中の校長をしております樽井といいます。今、学校と地域の連携の話ができましたが、晃陽中は、富屋地区と篠井地区の2つの文化祭等があり、11月3日が篠井、5日が富屋となっております。晃陽中学校自体は小さいのですが、地域と密接に関係していないと学校が成り立たないという状況もありまして、特に環境点検や、青少年育成活動などで大変地域の方にお世話になっている状況であります。そのため、中学校としては地域の文化祭等には積極的に参加をさせてもらっておりまして、吹奏楽部などは、両方の文化祭に出させてもらっております。また、作品等も出させてもらっているところです。

そういった場を活用して、子ども達の良さや課題を見ていただいて、また地域の方からもアドバイスやご指導をいただくということで連携を図っております。本校は小さい地域なので、皆さんの力を得ながら、学校としても協力をさせていただいているところでございます。

田村委員

すいません、誤解を生んでしまうと困るので、私の話は学校との関係性がすごく大事だと感じたというのが結論です。やはり地域の方から学校にアプローチする姿勢がないと、ダメだろうなと思います。学校からは地域には来にくいのだと思います。地域からという姿勢がやっぱり必要なのだと思います。姿川は、改善策として、どうしたかといいますと、豊郷の坂本会長のところでは防犯ですが、私どもは、防災から入っております。小学校が避難所指定になっておりますので、避難訓練の中に学校を巻き込む。それからもう1つは、児童の登下校中の震災があった時の救済措置をどうするのかという話し合いを今、学校とやりだしていますが、これは学校にかなり興味をもっていただいております。色々な話し合いができるようになりました。そのようなところから関係づくりをするということが、で入ったらどうかということで、いま進めております。関係づくりは重要だなということで感じております。

事務局

各学校単位で、魅力ある学校づくり地域協議会という組織が、学校と地域の方をメンバーとして構成されておまして、学校支援や地域の安全、見守り活動などに取り組んでいただいておりますので、そういった魅力ある学校づくり地域協議会をとおしましても、活動の事例として地域の文化祭の参加などを事例集に取り上げるなどして、皆様にお知らせしていきまして、文化祭の参入がしやすくなるように、考えていきたいと思っております。

丸山委員長

はい、ありがとうございました。それではよろしいでしょうか。

つづきまして、報告事項③「宇都宮市民大学（前期）の実施状況について」事務局より説明をお願いします。

事務局	【資料について説明】
丸山委員長	それではただ今の説明につきまして、ご意見・ご質問ございましたら、お願いします。
半田委員	終了者数が100%にならない理由は何かあるのでしょうか。
事務局	こちら見ていただきますと、全5回～全7回という講座になっておりまして、それぞれ1番の講座ですと、7回が全て毎週火曜日の午前中など、同じ曜日の同じ時間帯に開催する形になっており、事前に日程はお示した上で募集はかけているところですが、参加される方のご事情で都合が悪くなってしまうことや、体調が悪くなり1回や2回出られないことがございます。資料の一番下にあるように、4分の3以上の出席をもって修了とするという規定があるものですから、そういった理由で欠席されてしまった方や、申込みはしても、事情によって始まる前にキャンセルされてしまった方などがいらっしゃいます。そういった状況がありますので、なかなか100%の数字は今までもなかったところです。
丸山委員長	他には何かございますか。
今井委員	こういう講座の広報活動というのは、どこでどんなことをやられてるものなんでしょう。
事務局	市民大学の周知につきましては、市のホームページ、広報紙、また、こちらが今開催している後期の市民大学のパンフレットですが、各生涯学習センターはもちろんのこと、市の公共施設、関連施設等において配布しております。なお、今開催している後期講座は、9月1日よりこのような形で募集を開始いたしまして、受付をした状況です。
今井委員	ホームページなんかだとなかなか見る機会もあまりなく、一番広報紙が誰もが見やすいと思うのですが広報紙への掲載は1回だけですか。
事務局	広報紙への掲載は1回のみになります。市の広報紙は、掲載する記事の情報量も非常に多いので、基本的に同じ記事を2回、3回と複数回掲載することが難しく、原則1回ということもありまして、9月の募集の前に掲載しております。
丸山委員長	ありがとうございます。 西田委員、後期の合同開校式で講師をしていただいたので、何か一言感想などありましたらお願いします。



西田委員 講演をお聞きいただいて感謝しております。また、市役所での開催ということで、参加者が何人かというのは見ておりませんが、来やすい場所であったのかなというのを感じました。

丸山委員長 ありがとうございます。他に何かご意見ございますか。

半田委員 大体どのくらいの年代の方がこういったものは受けられるのでしょうか。

事務局 開催がどうしても平日の日中、午前、午後の時間帯というところもありまして、50代から70代の方がどうしても多くはなっております。ただ、今回、5番の「最新の宇宙研究」という講座があったのですが、こちらには全日制ではない高校に通われている高校生の方に参加していただき、おそらく市民大学では最年少の受講者なのではないかと思うのですが、そのような方も参加された状況がございます。

半田委員 ちなみに募集する希望といたしますか、狙っている年代というのはどのあたりを対象にして講座を企画しているのでしょうか。

事務局 毎年、市民大学につきましては、運営協議会が組織されておりまして、その協議会において市民大学を開催していくにあたっての講座の考え方を方針として決め、それに基づいた講座の企画、提案をいただき、審査して、次年度の講座を最終決定しているところです。

ここ最近につきましては、歴史などをとりあげると人気が高いというところがありますが、事務局側としましては、資料3、2番の「今を読み解く現代社会コース」で、現在の旬な話題などに光をあて、取り上げる講座に力を入れたいと考えているところです。講座の企画には、ボランティアスタッフの方がいらっしゃいますが、運営方針やテーマに沿った内容を企画、提案していただいているところです。また、来月に企画、提案の審査会がありまして、来年度の市民大学の講座を決定する、プレゼンをしていただくような形を予定しております。

古谷野委員 私は、その講座の企画に携わっており、市民大学を見ていただくとわかると思いますが、修了率のパーセンテージの高いのを見ますと、お年寄り向けのものばかりです。参加者はやはり高齢者の方が多いです。そして、先ほど事務局から話があったように、歴史や古を訪ねるようなものが、年齢構成からすると仕方ないのかもしれないが多くなってきている。選考委員に企画を見ていただくと、「今を読み解く現代社会コース」は非常に受けが悪いと言いますか、点数が低いです。このコースは、非常に必要なものですが、お年寄りは見向きもしない、あまり興味をもたない、聞く層とテーマが合わないというところを感じます。文化センターのようなところは、受講料などもありますので、人気のないものは切り捨てるのが必然ですけども、こちらは公の事業ですから、そのあたりを選考委員の方に十分考慮していただきたい。あと毎年やっているのが仏像関係です。前期、後期の両方に仏像の関

係した講座があり、なぜこんなにやるのかということもあります。講座の選考に対して、選考委員の方にそのあたりのことを疑問に持たざるを得ません。

あともう1点として、講座に出席する方は非常にリピーターが多いです。先ほどお話にあったとおり、平日に開催しますので、勤めている方は出てこれないということがあるかと思いますが、リピーターではなく新規参加者をどうやって増やすか、興味をもって来ていただくかが課題だと思います。私もデータをとったことがあるのですが、講座の出席者のうちリピーターの方が6割以上、お年寄り向けになりますと、6割～7割になります。ですから、そのようなことを考慮していただき、時代はどんどん変わっていきますので、市民大学も新しい知識を仕入れて、新しい時代に対応していくということが大切だと思っております。

丸山委員長

私も昨年からのこの企画の選考委員になりました。古谷野委員と最後は少し違うかもしれませんが、ほとんど同じような感想をもっています。そのような問題点ですか、あと西田先生の講演の中にありました世代間の連携、コミュニケーションなど、やはり若い世代をどう取り込んでいくか、一緒になってやっていくというのが課題かなというように感じております。

西田委員

そのような問題というのは、本日の協議の中にある「生涯学習センター事業運営の考え方」で、古谷野委員がおっしゃったような課題も考えていければよいのかなと思います。

丸山委員長

はい。ありがとうございます。他に何かご意見ございますか。

では、次の議題に移らせていただきます。

つづきまして、報告事項④「人材かがやきセンター主催講座（前期）の実施状況について」事務局より説明をお願いします。

事務局

【資料について説明】

丸山委員長

ありがとうございました。では、この件に関しまして、ご意見、ご質問などございましたらお願いいたします。

今井委員

基本的なことを教えていただきたいのですが、この人材かがやきセンターというのは、どういう位置づけなのか。生涯学習センターや市民大学などもありますが、それぞれの講座の目的の違いはどういったところで分かれているのでしょうか。

丸山委員長

これに関しては、資料5のA3の表でもつくっていただいておりますので、資料5で事務局よりご説明いただければと思います。

他に何かご意見などございますか。

それでは次の議題に移ります。

次に、メインということで、時間が押しておりますが、協議事項①「平成30年

度生涯学習センター事業運営の考え方（案）について」事務局より説明をお願いします。

事務局

【資料について説明】

丸山委員長

それではただ今の運営の考え方案について、ご意見、ご質問がございましたらお願いします。

西田委員

事業運営の考え方としては、妥当なものかと思います。特に、それを踏まえてなのですが、「1 社会情勢と基本的な考え方」に、人々のニーズも一層多様化し、求められる能力も変化していくことが見込まれるとあり、これに対応していくことが非常に大切なのかなと感じました。どのように具体的にやっていけば良いのかということで、別紙資料の3に各種講座の関連性が載っていますが、やはりこれをどういうように細分化していけるかというところが大切なのかなと思いました。

先ほど、半田委員からも何歳くらいの方が来ているのですかということで質問がありましたし、古谷野委員からはシニア層が多いということもありましたので、ここでは会議資料のため簡略的に掲載しているのかとは思いますが、これを細分化して、年齢や属性、子育て世代なのかシニアなのかなどをしっかりと分類していくことで、学習プログラムを作る時にも役立つでしょうし、また、広報も問題になっていましたが、細分化して年齢層ごと、属性ごとに有効な広報の手段もあるかと思えますので、これをどれだけ深く分析していけるのかが必要になるのかなと感じました。

今井委員

別紙の資料を見せていただくと、生涯学習センターは地域学の講座を実施しているということで、地域の方が中心でどういうことをやっているのか、生涯学習課でやっているのか、やり方はどんな風なのかなということと、市民大学の講座と人材かがやきセンターの講座がこんなものがあるというのはわかりましたが、地域の生涯学習センターでは何の講座をやっているのか教えていただきたい。

事務局

今年度実施予定の事業については、前回の会議資料に、18センターの講座の概要という形で掲載して配布させていただいております。先ほどご質問がありました各センターの事業がどのような形で展開されているかですが、別紙資料にあるとおり、生涯学習センターは地域に密着したような内容の講座を実施しております。地域学講座などについては、地域のまちづくり組織などと共催して、内容などを考えて実施するような形で展開しているところです。各センターでは、担当の市の職員がおりますので、そういった職員を中心に講座を企画していますが、地域住民に密着した講座を展開しておりますので、当然その中では地域の各種団体との連携や、共同での企画というものを進めていければと考えております。

丸山委員長

他に何かご意見、ご質問ございますか。

長谷川委員	生涯学習センターでせっかく学んだのに、この資料でいう3番の学んだ成果を活動につなげる仕組みができてないような気がします。もっとボランティア活動などにつなげていくなどを進めていっていただきたい。
事務局	学んだ成果を活動につなげていくのは一番難しい部分であり、まずは趣味・教養的な学習をして楽しいなと感じるところから、ボランティア活動や地域団体までつながるためには、かなりの段階を踏まないと難しいと事務局では考えている。まずはどのようなところにつなげていくかということでも、サークルなどの趣味を共有する仲間のところにつなげるのは1つの方法かと考え、そういうことから重点事業として、「学習した人を様々な活動へつなげる学習相談」をあげさせていただいたところですが。この部分にはかなり力を入れなくてはならないと課題認識はしております。
半田委員	生涯学習センターにおける学習相談件数は、どんな相談が多いのですか。
事務局	生涯学習課で認識しているところでは、サークルの紹介の問合せが多く、講師の紹介についての問い合わせも一部ありますが、例えば「外国語を習いたいけど習えるサークルありますか」や、「フラダンスやってるようなサークルありますか」など、そのような趣味的なサークルの問合せの多いようなところを感じております。
半田委員	「人に教えたいんですけど」というような問い合わせはあまりないですか。
事務局	生涯学習課ですと、年に数回はございます。自分はこういう知識があるので教えたいのだけどうしたらよいのだろうという問い合わせはいただくことがありますので、その場合、宇都宮市ではマナビスというシステムに講師登録をしていただき、その講師の方の情報を市民に提供することで、活動のきっかけづくりのひとつとして取り組んでいるところです。
半田委員	問い合わせがあった場合にはマナビスなどを紹介する形なのですか。
事務局	マナビスに登録できますということで、ご案内しております。
丸山委員長	生涯学習センターの方では相談について何かございますか。 例えば中央生涯学習センターではどのような相談がございましたでしょうか。
鷲谷所長	やはり先ほどご説明がありましたとおりに、サークル関係の問い合わせがほとんどでして、フラダンスや娯楽などの問い合わせと、マナビスに団体の情報を載せておりますので、その団体についてどんな活動をしているのか知りたい、教えてほしいなど、団体の名前がでてくることもございます。そのような問い合わせがほとん

どになります。

丸山委員長 はい、ありがとうございます。

上吉原所長 北生涯学習センターですが、それ以外としましては、「新しく活動をやりたいがどうしたらいいんだ」などを求められることもございます。

丸山委員長 ありがとうございます。他に何かございますか。

古谷野委員 資料の中で、4項目の1番上の(1)に、社会的課題に対応した講座の開催とありますが、私も携わっている中で、このような社会的課題、少子高齢化や地域連帯感などは、講座のアンケートの上位にあります。実際に地域高齢化の問題や自治会の問題などをとりあげて講座を実施すると、先ほどの市民大学と同じように参加者がガクンとおちます。その辺は実際アンケートに書いたりするのも問題だと思っております。言葉では聞く、関心はもっているが、行動するか、深く考えてみようかとなるとそこまでの意識はないので難しいです。人をいかにして集めるか、来ていただくか、社会的課題ということで実施すると敬遠する人が多いので、いかに楽しそうな講座の中に組み込むか考えることが必要なんじゃないかと、実際に活動する中では思います。こういったテーマで実施すると出席率が極端に悪く、40人定員なら半分くらいの申込みかもしれません。そのため、この部分はやり方をよく考えて実施した方がよいかと思っています。

丸山委員長 ありがとうございます。他にございますか。

竹内副委員長 以前に運営審議会委員として、県の教育センターの研修に参加させていただきました。その時の一言が、一言だけなのですが私の頭に残っています。それは社会教育施設として、図書館、博物館、公民館の3つがあるのですが、この中で公民館だけ数が減っているという現実があるということです。博物館、図書館、これは我々が考えても、何をやっているか、そこに行けば何ができるかわかると思います。しかし、公民館、生涯学習センターっていうのは何をやっているのだろうか、どうしても一歩足が遠ざかってしまう。そのようなところがあるのではないかと思います。そのようなことは、先ほど古谷野委員がおっしゃったことにもつながるところがあるのではないかなと思います。やはり講座、人が集まらないという問題があると思うのですが、講座をうまくやりながら、徐々に活動を広げていく、地域に参加する。そういった活動まで徐々にっていくというのは、これはもう永遠の課題だろうと思うのですが、努力するしかないのかなと思っています。特に今日来ていらっしゃる市民活動センター、それから地区市民センターは、生涯学習センターという看板と、もう一方では、地域とのつながりという2つの顔を持っていますし、地域とのつながりでは非常に詳しいところがあるかなと思いますので、センターの力を借りながらですね、前に進めていただきたいなというように思います。

丸山委員長	ありがとうございました。それでは時間も過ぎておりますので、この協議事項（１）「平成２９年度生涯学習センター事業運営の考え方（案）について」は、承認することとしてよろしいでしょうか。
各委員	異議なし
丸山委員長	<p>本日ははじめからの話の中でもこの事業運営の考え方のような議論は出ていたと思います。いかに実効性のあるものにしていくかということが問題になってくるかと思えます。どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、この協議事項（１）「平成２９年度生涯学習センター事業運営の考え方（案）について」は、承認といたします。</p> <p>以上をもちまして、本日予定していた議事は全て終了いたしました。皆様、活発なご意見、議論、ありがとうございました。この内容について、地域教育推進計画をもとに議論されていることを、生涯学習センターを運営している方に、生涯学習課をとおして、伝えていただければと思います。ありがとうございました。</p> <p>それでは、進行を事務局の方にお戻しいたします。</p>
事務局	<p>それでは続きまして、「４ その他」に移らせていただきます。</p> <p><b>【配付物及び次回の会議日程について説明】</b></p>
事務局	本日は丸山委員長を始め、委員の皆様、長時間にわたるご審議誠にありがとうございました。以上をもちまして、平成２９年度第２回宇都宮市生涯学習センター運営審議会を閉会いたします。